

74 遊休桑園の落葉期刈り払いによる牧草導入技術

福島県畜産試験場 沼尻支場・平成12年度畜産試験場成績概要

- 1 部門名 飼料作物－草地－草地造成 分類コード 08－01－54000000
- 2 担当者 佐藤茂次、高萩淳子、小林 準、沼 玲子*（*相双農林事務所農業振興普及部）
- 3 要 旨

(1) 牧草導入技術

遊休桑園(約1ha)への牧草導入のための作業工程を改善するため、林地化(遊休化約10年)し伸長した桑樹の刈払・運搬・集積作業を夏季に行うと多労のため落葉期(3月)に刈払等を行い軽労化した。当年秋の播種までに発生する雑草駆除対策として管理放牧を111日間行い、加えて5つの表土処理方法を組合せ、マクロシードペレット播種の前処理とした。その結果、刈払から播種までの作業期間は表土処理法で異なり、ジクワット・パラコート剤(J剤)散布＋刈払区＞グリホサート液剤(G剤)散布＋レーキ処理区＞G剤散布＋ロータリー区≒刈払＋ロータリー区＞管理放牧区の順であったが、いずれも20.0～26.2人・時間／10aの範囲であった。マクロシードペレットによる9月播種時及び翌年早春の牧草定着状況は全ての導入方法で大差はなかったが、J剤散布＋刈払区、管理放牧区、刈払＋ロータリー区で雑草が増加する傾向にあった。またペレニアルライグラスがオーチャードグラスより定着状況で勝ったが、より安定した牧草生産量を確保するためには導入草種の追加が望ましい。

(2) 利用初年度の草地管理技術

重放牧(約700カウデイ)と軽放牧(約380カウデイ)を行い雑草の繁茂状況を比較した結果、重放牧が軽放牧よりギンギン、ヨモギ等の永年生雑草の繁茂を抑制した。

以上、桑落葉期刈払による牧草導入にあたっては、管理放牧に加えG剤散布とレーキ処理又はロータリー処理を併せたマクロシードペレット播種が有効と考えられる。